

【目次】

- 学校に求められる児童虐待対応
- AEDの事前準備
- 【特集】人間関係づくりプログラムのすすめ①
- 【特集】児童生徒を自転車事故から守る①

学校に求められる児童虐待対応

●早期発見・通告、継続的な見守りと支援

児童虐待への対応として学校にできることは、まず早期発見です。学級担任、授業担当、養護教諭、SC等で気づきの視点を共有し、日常的な見守り体制を整えましょう。虐待が疑われる事例を発見したら学校組織として情報共有し、市町村の児童福祉担当課等に相談・通告します。同時に教育委員会への報告も必要です。児童虐待は通告して終わりではありません。事案の7～8割は在宅のままでの支援となります。市町村の「要保護児童対策地域協議会」を通じて関係機関と情報共有するとともに、学校の役割を明確にして、組織的な見守りと子どもや保護者への支援を継続しましょう。

※「教職員・保育従事者のための児童虐待対応の手引き」を活用しましょう。気づきの視点や対応上の留意点が記載されています。

https://www.pref.oita.jp/uploaded/life/269071_303057_misc.pdf

AEDの事前準備

●保管場所・使用方法等は確認していますか

心室細動からの救命には、迅速な心肺蘇生とAEDでの電気ショックが必要です。AED作動までに1分遅れるごとに救命率は10%低下します。体育での授業時や持久走大会・球技大会などの行事では、AEDを実施場所や会場に移動させることも必要です。いつでも使用できるようにバッテリーやパッドの点検等（耐用年数）の確認も行ってください。

【特集】人間関係づくりプログラムのすすめ①

●中1ギャップを克服した桜咲タイム

鳥取県鳥取市立桜ヶ丘中学校では、毎週水曜日5限終了後の10分間、全校で桜咲タイム（さくさくたいむ）という、短時間グループアプローチ（構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングに基づく短時間の活動）に取り組んでいます。

以前は多かった人間関係トラブルもなくなり学校が落ち着きを取り戻した結果、1年生の不登校がゼロになりました。さらに活動は広がり、全教科・全時間の授業で対話的な学習が取り入れられ、桜ヶ丘版アクティブラーニングが展開されています。

※桜ヶ丘中学校のホームページURLはこちら、

http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/sakura-j/index.php?page_id=167

【特集】児童生徒を自転車事故から守る①

●ヘルメットと保険

全国の自転車利用中の死亡事故のうち、頭部損傷によるものが63%（H29年度警察庁調査）を占めています。既に小学生は道路交通法で着用が努力義務となっており、中学生は一部の地域を除き着用されています。高校生も同様に「命を守る」うえで自転車ヘルメット着用が望まれます。また、自転車利用者が加害者となるケースが発生していることから「自転車賠償責任保険」（県P「学生・子ども総合保険」の小中学校加入率12.1%）への加入促進の声かけをお願いします。

◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/8oNP6Dkf>

◎過去のバックナンバーは以下のURLから御覧いただけます。

<http://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/mailmaga.html>

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課（URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>）